

[A THEORETICAL BLUEPRINT FOR WORKING ADULTS]

# 奪われる覚悟なき 「平和主義」はただの依存

防衛コストと現実を直視する真の責任論

# 「美しい言葉」の裏に潜む罠



「武器を持たない」と語ることは、暴力を嫌う自分を少し上等に見せてくれる。

非常に簡単で、耳障りが良く、道徳的なポーズ。

しかし、その言葉には致命的な「覚悟」が欠けている。

# 思想の筋を通す「究極の条件」

占領されても

略奪されても

拷問されても

辱めを受けても



それでも絶対に文句を言わず、  
誰にも守ってもらうことを期待しない「究極の覚悟」。  
これがあって初めて、思想として成立する。

# 現実の正体： 「都合のいい平和主義」

「私は武器を持たない。  
戦うのも嫌だ。  
暴力も嫌いだ。  
けれど、攻め込まれたら  
私のことは守ってね。」

## 防衛コストの外注

自分は危険を引き  
受けず、汚れ仕事  
もせず、武力の現  
にも触れない。

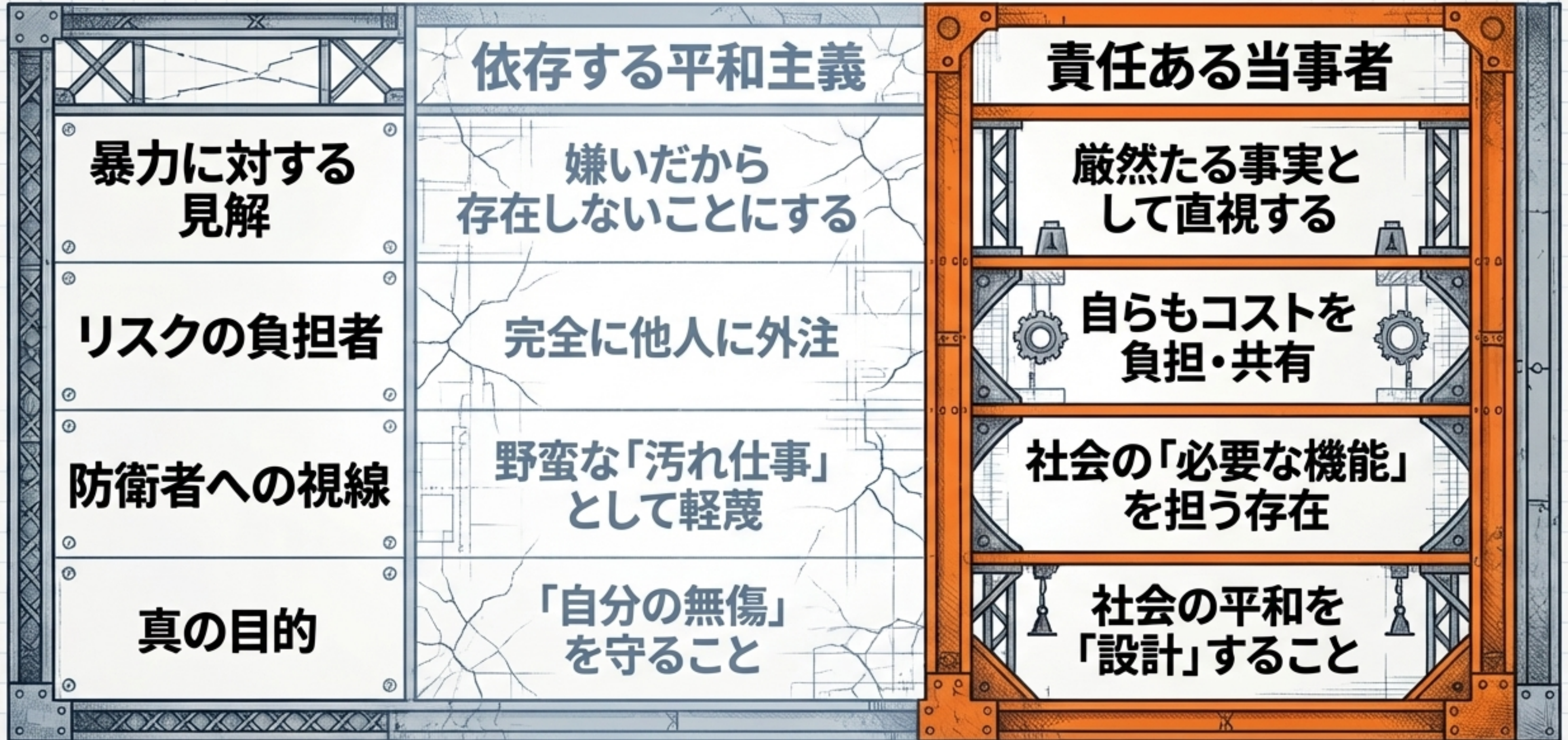
それなのに、  
自分の安全だけは  
当然の権利として  
要求する。

道徳のオブラート  
で包んだ、  
ただの身勝手な  
構造。

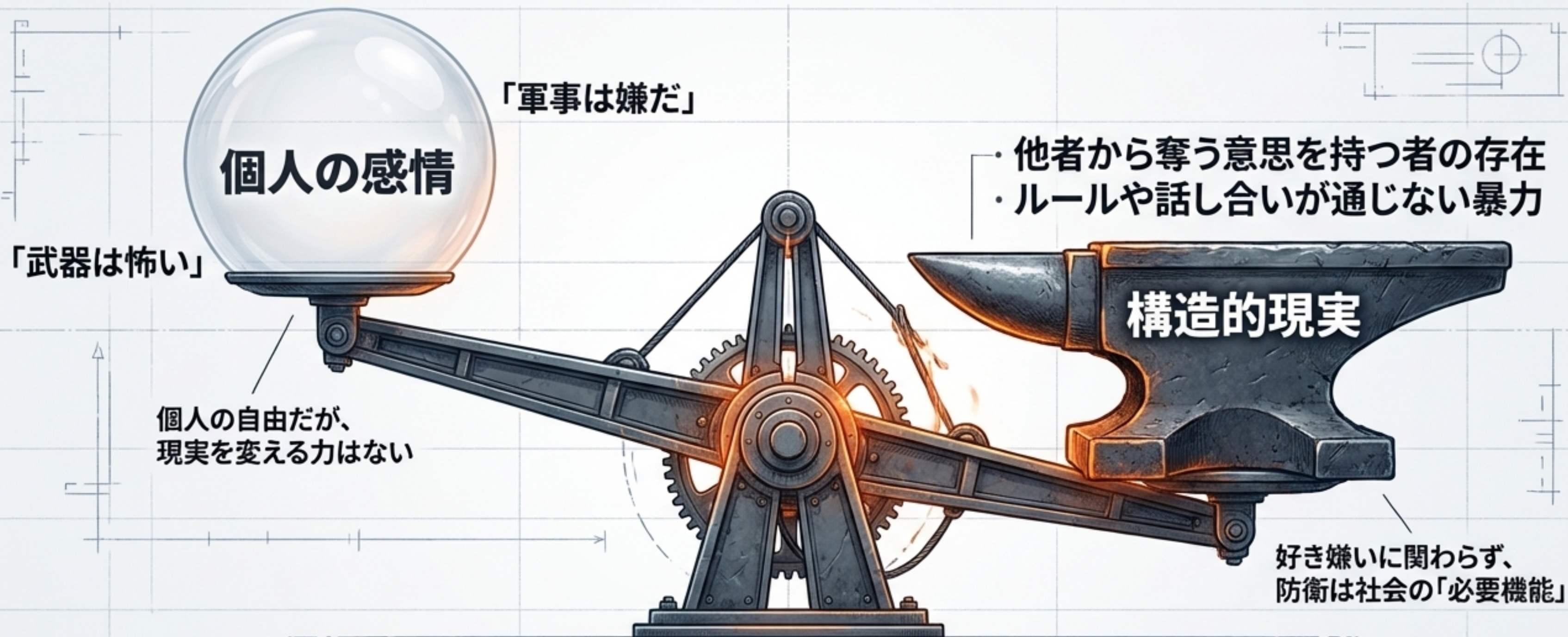
# 無意識な「依存と搾取」のサイクル



# あなたの現在地はどちらか？



# 自由に感じること ≠ 現実が変わること



感情と現実を切り離せ。防衛は趣味や思想ではなく、構造的必要性である。

# 「甘えの制度化」は、あなたの職場にもある

## 国家安全保障

「私は戦わない。」

「でも、私のために  
戦ってね。」

## ビジネス・組織

「私は泥臭い仕事や  
リスクを負わない。」

「でも、私の給料と  
評価は保証してね。」

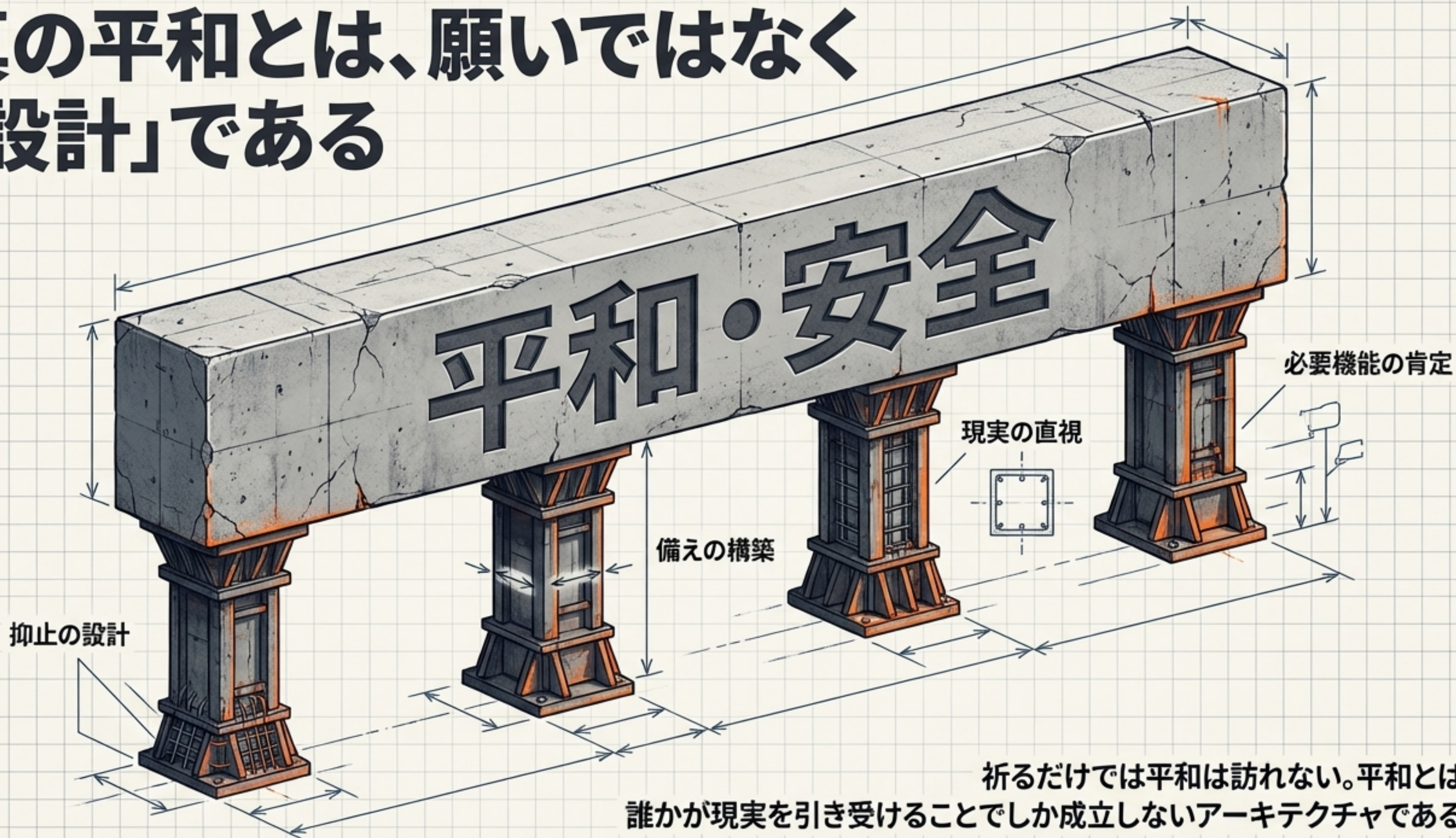
どちらも、見えないコストへの想像力を欠いた  
「自分の無傷だけを愛する」無責任な要求。

# 「きれいな手」を支える泥臭い代償



安全や成果は、誰かが「泥臭いプロセス」と  
「厳しい現実(コスト)」を引き受けた結果としてしか生まれない。

# 真の平和とは、願いではなく 「設計」である



祈るだけでは平和は訪れない。平和とは、  
誰かが現実を引き受けることでしか成立しないアーキテクチャである。

# 市民としての「最低限の当事者意識」

## コストの負担

税金、制度への支持、自らの備えで体制を支える。

## 敬意と承認

矢面に立つ人々を「汚れ役」として軽蔑せず、敬意を払う。

## 現実認識

暴力が存在する事実から目を背けない。

## 自立の意志

外部の力を都合のいい「無料保険」と勘違いしない。

**「何をやっているんだ」と  
叫ぶ前に、自分が何を引き  
受けているのかを答える。**

**奪われる覚悟もない者が、防衛を悪だと語るな。  
守る力を汚いと呼びながら、その力に守られて生きるな。**

# 思考を深める自己内省 (Responsibility Audit)

**Q1**

あなたの職場や学校で、「コストを払わず結果だけを要求している」事例はないか？

**Q2**

「誰かがやってくれるだろう」と無意識に依存している業務や責任は何か？

**Q3**

あなたが「自分の無傷」を守るために、他者に押し付けている負担はないか？



権利だけを主張する態度を捨て、真の自立とリーダーシップへ歩みを進めよ。

# 結論

平和も、成長も、  
ただ祈るだけでは手に入らない。  
自らの手で引き受け、構築するものだ。

祈るな、設計せよ。